

会 議 録

会議の名称	日向市公共施設等総合管理計画策定市民検討委員会（第2回）
開催日時	平成28年4月20日（水）14時00分から15時15分まで
開催場所	日向市庁舎 地下第1会議室
出席者	<p>【委員】 釘宮昌平（公募委員）、川畑孝博（公募委員）、沖田實美（日向市区長公民館長連合会会長）、椎葉哲男（日向市PTA協議会会長）、黒木一彦（日向市社会福祉協議会常務理事兼事務局長）、山本達雄（日向市観光協会事務局長）、中西八千代（日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム協議会運営委員） 上記委員のうち1名（F委員）が都合により出席できなかったため、4月22日（金）13時から別途事務局による意見聴取を行いました。</p> <p>【事務局】 門脇功郎（総務部長）、日高章司（財政課長）、押川克久（財政課資産経営係長）、中原友美（財政課資産経営係）</p>
議 題	会議資料「会議レジュメ」のとおり
会議資料の名称及び内容	1 会議レジュメ（会次第） 2 会議資料（日向市公共施設等総合管理計画（案）について） 3 別紙資料（第1回会議録）
記 録 方 法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開会 2 総務部長あいさつ 3 議事 （1）日向市公共施設等総合管理計画（案）について 議事について、事務局から説明。主な質疑、意見等は次のとおり。 （委員長）計画策定についての説明に対するご質問、あるいは公共施設のあり方等についてのご意見等がありましたらお願いします。 （A委員）公共施設は、災害時の避難場所となるので、耐用年数だけでなく、防災の面から耐震問題についても考慮に入れておく必要があると思います。日向市の場合、津波の問題もあるので、避難所として長期にわたって過ごさなければならないことも考えられ、公共施設が果たす役割は大きいと思います。特にトイレの部分では、古い建物では和式しか無く、障がい者の人はまず使えないという問題もあります。 （事務局）基本目標の三原則の1つとして「安全・安心の確保」を考えておりますので、公共施設の耐震化や避難場所・避難所としての役割という視点を含めて改めて整理していきたいと思えます。トイレの問題につきましても、今回の公共施設等総合管理計画または防災対策の中で考えていきたいと思えます。 （A委員）施設が古いと、車いすが入らない、階段しかないといったこととなり、使用できない人が出	

できます。そういう点も考慮しておかないと、いざという時に困るのではないかと思います。

(B委員) 今回の熊本の地震で、多額の費用を使って耐震化を行っても、施設の寿命を延ばすことは難しいことがわかりました。老朽化した全ての公共施設の耐震化を行うことは現実的ではないので、人口分布や利用者数にあわせ、割り切って耐震化をしていくことが大切だと思います。

(事務局) 人口分布や利用者数といった現状を踏まえて、「選択と集中」による耐震化が必要であるというご意見ということでお伺いしておきたいと思います。

(C委員) 基本理念の中の「身の丈にあった公共施設」という表現が気になりますので、ご検討をお願いします。また、東郷町との合併から10年が経過しましたので、日向地区と東郷地区の公共施設の統廃合やどこに配置するのかということも考えていただきたいと思います。また、数値目標について説明をお願いします。

(事務局) 合併市町村の方が保有する公共施設の量が多くなる傾向にありますので、計画の中で考えていきたいと思います。数値目標につきましては、将来の維持補修・更新のために必要な経費の見込み、実際の維持補修・更新への予算の配分、人口の推移等から、現時点では今後30年間で30%の削減が適当ではないかと考えています。30%が具体的にどのくらいになるかと言いますと、現在市が保有する公共施設の延床面積が約30万㎡であり、そのうちの約30%の9万㎡が市営住宅全ての延べ床面積と同じになります。

(C委員) 30年間で30%ということは、1年に1%を削減するということですか。

(事務局) 3つを1つ、2つを1つにという集約化を進めないといけないと思います。また、地域の皆さんと「市としてはこのような形で進めたい」と話しても、難しいことがあると考えています。現時点では、30%という数字を考えていますが、これからの財政事情や人口の推移を見極めながら、5年ごと等の定期的な見直しが必要であると考えています。

(B委員) 社会保障費は今後も増えることから、公共施設のための経費は限られてきます。

(事務局) 社会保障費は増えるが、収入は減っていくということで、これに対応するためにハード・公共施設のための経費を減らすということが、どこの自治体でも行われています。しかし、公共施設の安全・安心の確保を考えると、ある程度の経費を使う必要がありますので、総量の削減は避けられないと思います。庁内でも様々な意見があると思いますので、皆さんの意見も考慮しながら進めていきたいと考えています。

(B委員) 現実的にはこのままでは財政は破綻すると思います。もう少し厳しい数値目標でも良いと思います。

(D委員) まず基本理念の「身の丈にあった」という表現にマイナスのイメージを持ちました。人口の減少や財政のことを考えてということでしたが、「将来を見据えて」「市民ニーズに合わせて」「効率的な」等が良いと思います。必要な施設は残さなければならないし、無駄であるというものは、市民が納得して喜びを持ちながら手放すことができるような表現を考えていただきたいと思います。また、数値目標についてですが、この検討会で50%の削減とした方が良いという意見を出した場合に、これがどのように取り扱われるのかを教えてください。あと1点、避難時の階段やトイレの問題については、「安全・安心の確保」の取り組みとして、施設類型ごとの議論の中でも考えていただきたいと思います。

(事務局) 公共施設を減らす・なくすということだけではなく、地理的には少し不便にはなるが使い勝手が良くなった、市民の皆さんのニーズに合った魅力的なものとなったというような前向きな視点も踏まえながら基本理念の表現を考えてみたところですが、皆さんのご意見を踏まえ、改めて考えてみたいと思います。また、今回説明をさせていただいた内容は、決定をしているものではありません。数値目標につきましても、50%程度が必要ではないか等、皆さんからこのような意見がありましたが、どうしましょうかという形で庁内の会議で決めていきたいと思

ます。

(E 委員) 数値目標は 30% よりも、もう少し厳しいもので良いのではないかと思います。耐震化の問題は今回の地震の関係もあるとは思いますが、耐震化には大変な経費が必要になりますので、20 ~ 30% ではどうしようもないと思います。もし達成が困難であっても、計画目標としては多少厳しくても良いと思います。あとはどこを優先的にやるのかという選別の問題です。

(委員長) その他ご意見がありましたらお願いします。

(A 委員) 前回の議事録を見ながら思ったのですが、やはり総論と各論の関係があります。岩脇中学校の跡地という問題があり、これからどう議論していくかということを考えなければなりません。一定の枠をもって地域の皆さんと議論をしていくとなると反発を受けると思います。住民の意見を汲み上げて決めるという姿勢で臨まなければ、「どうせ市が決めたとおりになるだろう」という不信感が生まれれば議論は進みません。地域の皆さん、市議の皆さんそれぞれに立場がありますので、とことん話を聞くことが回り道のように早道になります。自らが決めたことについては地域の皆さんは責任を持ちます。この検討委員会は総論の部分の議論ですが、各論の部分は行政側にそのような姿勢が大事だと思います。

(B 委員) 施設カルテを見ると、市外の業者が日向市の仕事をしている部分があります。経済から言えば、市から出ていくお金となりますが、このようなお金の流れを考えることも公共施設マネジメントの 1 つだと思います。耐震化も大切ですが、指定管理者である業者との関わり方も考えながら、維持管理のあり方や利用の向上を図ることを考えていくとプラスになると思います。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局から、今後のスケジュールについて説明。この件について質疑なし。

【次回開催日時】平成 28 年 6 月 29 日 (水) 午後 2 時 ~

(委員長) 他にご意見はないでしょうか。またこの場で議論したいことがあれば、事前に事務局に伝えていただければと思います。それでは、これで会議を終わります。

~ F 委員からの意見聴取の内容 ~

(F 委員) 今回の熊本地震では、耐震化を行った学校の体育館が避難所として使用できない事態となっており、どこまで耐震化を行えば良いかという判断が難しくなりました。やはり、安全なまち、安心して住めるまちという視点が大事だと思います。また、日知屋小の児童減少により、日知屋東小との統合をしたらという話がありますが、今年 3 月に閉校となった幸脇小も、閉校直前になって地域の皆さんから色々な意見が出される等、目前にならないと真剣に考えることができない状況であります。少子高齢化の問題は何十年も前から言われていることであり、取り組みが遅くなるほど大変なことになります。人口減少についても、人口はこの先減少することを前提に対策を考えた方が良くと思います。

(事務局) 公共施設のことだけでなく、それぞれの地域が将来どのようなあり方が良いのかといったビジョンも必要だと思います。

(F 委員) 家計に置き換えてみても、収入が限られているので、どこかに経費をかければ他の部分を抑え、どこかで我慢をしなければならないと思いますので、「身の丈にあった」という表現も良いと思います。

(事務局) 人口や財政の規模に見合った取り組みを進めるという視点は踏まえつつ、改めて考えていきたいと思います。